



2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

都道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 石峯中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	石峯中学校 1～3年生徒 161名 教職員 19名 計180名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (二條実穂選手講演会)
4 目標 (ねらい)	車いすを使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障害を持った方たちと共生する社会について考える。 リオパラリンピック日本代表(女子ダブルス 4 位)二條実穂選手の体験談を聞いたり、競技用車いすの使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	<p><事前の取組></p> <p>○ 国際パラリンピック協会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用し、道徳の学習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料：パラリピアンの日常生活からバリアフリーを考える ・内容：マセソン美季さん（長野パラリンピックアイススレッジ金メダリスト）の経験に基づく話から、バリアフリーを実現するために必要なことを考える活動をした。  <p><当日の取組></p> <p>○ 二條選手の講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢を実現するために大切にしている4つのこと ① 自分の中の「好き」を大切にする ② 夢を言葉にし、宣言する。 ③ 他人と自分を比べない ④ 「無理」と絶対言わない 

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車いす体験 <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技用車いすでの移動体験（全員） ・ 車いすテニス体験（代表者） ・ 競技用車いすと、普段使用している車いすの違い  <p><事後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を通して見方・考え方が変わったことを見つけよう
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ バリアフリーの実現には、環境だけでなく、周囲の人が「心のバリア」を取り除くことが大切であることに気付くことができた。障がい個性をとらえたとき、誰にでも得意・不得意なことがあるということ、互いに協力して課題解決に向かうことが大切であることができることを学ぶことができた。 ○ オリンピック・パラリンピックに関する知識を得たことで、出場選手一人一人が、夢の実現に向けて不断の努力をしていることができた。また、共生社会の実現に向け、自分に何ができるかを考えるきっかけとすることができた。 ○ 生徒の振り返りの記述（一部抜粋） <ul style="list-style-type: none"> ・ 二條選手の話聞いて、夢をもつことが大切で、好きなことや得意なことを磨くことがより大切だということが分かりました。他人と比べてばかりな自分から、昔の自分と比べてどう変わったかを考える自分になることが大切だと思いました。 ・ 実際に車いす体験をしてみて、手の回し方が難しく、勝手にくるくる回ったり、自分が思うように進めなかったりしました。そんな中で、自由に車いすを動かしている二條選手の姿が恰好良かったです。 ・ 二條選手の講演を聞いて、「好きを大切にする」ということが大切だと知ることができたので、これからは、自分のやってみたいことをチャレンジすることを心掛けようと思いました。 ・ 二條選手が、「車いす生活になって苦労したことはあまりない。」と言っていたのがとても印象に残りました。それは、「周りの人の支えがあったから」と言っていたので、自分も家族や友達など、周りの人を大切にしようと思いました。 ○ アンケート 「お年寄りや障害のある方と交流したいと思いますか。」 【肯定的回答の割合】 <実践前>62% → <実践後>67%
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演会での講師を招聘するに当たって、市内の小・中学校と連携して計画を立てた。それにより、経費を抑えることができた。 ○ バリアフリーについて、事前に道徳科の授業で学習した。

8 主な課題等	<p>○ オリ・パラ教育を道徳科だけでなく、他の教科とも関連付けた年間計画を立案・実践することで、さらに生徒の変容がみられると考える。</p> <p>○ 様々な人と交流する機会や、体験活動等を教育課程の中に位置付け、多様性を実感的に理解できる生徒を育成したい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今後もオリンピック、パラリンピック選手等を招き、子どもたちと交流、講演、スポーツ教室等を通して、オリンピック、パラリンピックについての関心を高め、さらなる理解を深めたい。</p> <p>また、限界に挑む姿や障害を克服した心情・態度を知り、生徒が自分自身を振り返る機会にしたい。具体的には、多様性を認め、一人一人が個性や能力を発揮し、活躍する機会が誰にでもあること、自分のために、他者のために、今すべきことは何かなどを考える機会としたい。</p>